

特集「ヒューマンファクタを考慮したセキュリティとプライバシー」の編集にあたって

小松 文子^{1,a)}

我々の毎日の活動は、情報技術に支えられた社会システムから多くの便益を得る一方で、サイバー攻撃や内部者による不正など様々な脅威にさらされている。したがって、安全な電子社会システムを支えるために、情報セキュリティ技術が欠かせない。セキュリティ心理学とトラスト(SPT)研究会は、比較的新しい研究会であるが、情報セキュリティにおけるヒューマンファクタにフォーカスを置いた研究を進めてきた。情報セキュリティ対策は技術とセキュリティマネジメントの2つの局面から推進されてきたが、ヒューマンファクタが重要な役割を担う。たとえば、人の認証技術には当然のことながら人的要素が組み込まなければならないし、セキュリティマネジメントの際には人(組織)の意思決定がその対策推進を左右する。また、人的要素なしにはプライバシーを考えることはできない。

このような背景のもと、本特集号は、セキュリティとプライバシーについて、技術だけでなく、人間の行動、意思決定などのヒューマンファクタを考慮した研究論文を掲載することを目的とした。新たな研究領域であるため十分な投稿数を得ることができるかの不安があったが、結果として31件の論文が投稿され、最終的に17件を採録した。情報処理学会の査読ポリシーである「石を拾うことはあっても玉を捨てるなかれ」に照らして査読を進めた。このため、第1回の査読結果において、課題が多い論文に対しても、査読条件を丁寧に提示し、対応を促した。査読者の努力に敬意を表するとともに、短期間のうちにこれに応えた著者らが多かったことは、編集委員会として喜ばしいと感じた。

また、異なる分野の専門家に査読者をお願いしたゆえに、分析手法などの研究論文としての要件がその分野とは異なると、指摘があった。複数の研究領域にまたがる研究を推進するために、それぞれの分野の査読基準を調整することはメタ査読者の重要な役割であるとともに、引き続き議論が必要と思う。

最後に、限られた時間の中で、多様な論文の査読を行い、予定どおり出版にこぎつけることができたのは、査読者や

編集委員、学会関係者の皆様型の多大なるご尽力によるものであり、厚くお礼を申し上げたい。特に、金岡晃(当方大学)、西岡大(岩手県立大学)の両幹事には委員会運営を潤滑に進めるためきめ細かな準備をしていただいた。心から感謝したい。

「ヒューマンファクタを考慮したセキュリティとプライバシー」特集号編集委員会

- 編集長
小松文子(情報処理推進機構)
- 幹事
金岡 晃(東邦大学)、西岡 大(岩手県立大学)
- 編集委員
鈴木幸太郎(日本電信電話)、稲葉 緑(JR 東日本)、猪俣敦夫(奈良先端科学技術大学院大学)、岩田 彰(名古屋工業大学)、上原哲太郎(立命館大学)、田中俊昭(KDDI 研究所)、遠藤直樹(東芝ソリューション)、五味秀仁(ヤフー)、島岡政基(セコム)、白石善明(神戸大学)、高田哲司(電気通信大学)、角尾幸保(日本電気)、寺田真敏(日立製作所)、西垣正勝(静岡大学)、長谷川まどか(宇都宮大学)、松浦幹太(東京大学)、毛利公一(立命館大学)、八槇博史(東京電機大学)、山口高康(NTT ドコモ)、吉野太郎(関西学院大学)、村山優子(岩手県立大学)、廣田啓一(日本電信電話)、田中健次(電気通信大学)、吉浦 裕(電気通信大学)、大坐畠智(電気通信大学)、斯波万恵(東芝ソリューション)、坂本一仁(セコム)

¹ IPA 情報セキュリティ分析ラボラトリー
Security Economics Laboratory, IPA, Bunkyo, Tokyo 113-6591, Japan

a) a-koma@ipa.go.jp